

## ごあいさつ

皆様方にはおかれましては、平素から大変お世話になっており、改めて厚くお礼を申し上げます。7月3日から8日にかけて、県内各地は記録的な豪雨に襲われ、土石流やがけ崩れ、河川の氾濫などにより、百名を超える死者・行方不明者を出す、戦後最大級の被害をもたらしました。

福山市においても、手城川を始めとする28もの河川が越水、ため池が決壊・破損するなどして、死者2名、住家被害も全壊14棟、半壊73棟、床上浸水は実に1,164棟に及ぶ未曾有の災害となりました。

犠牲となられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様には衷心よりお悔やみを申し上げます。また、被災された方々が一日でも早く普段の生活を取り戻されるよう、生活再建と災害復旧に取り組んで参ります。

さて、この度の豪雨災害を受けて、広島県議会は8月3日に臨時会を開き、その時点で可能な対策を全て盛り込んだ、過去に類を見ない超大型の1,325億円もの補正予算額を計上しました。具体的には、被災者支援として、避難所の設置や避難用住宅の確保、被災地で活動を行う災害ボランティアセンターに要する経費などを措置し、また、災害復旧事業として、道路、河川護岸などの土木施設や農地・農林施設、砂防ダム等の緊急整備に要する経費を措置するとともに、県の送水施設の被災により多くの市町で断水が生じた水道施設の復旧に必要な予算を措置しました。

さらに9月定例会で議決した補正予算では、8月補正予算に引き続き、被災者支援や災害復旧・復興事業等を実施する予算として671億円を措置しました。7月豪雨災害に係る対策として、8月補正と9月補正の合計2,000億円を超える補正予算により、一気に復旧・復興への道筋をつけるべく、あらゆる手立てを講じ、県執行部とともに、全力で取り組んでまいります。

次に、9月定例会県議会は、9月18日から10月2日までの15日間の日程で開催され、7月豪雨災害を中心に、学校への冷房の整備、外国人材の受け入れを見据えた取り組み、放課後児童クラブの運営、広島県におけるMICE戦略など、県政の重要課題について論戦が交わされました。

また、閉会日には委員16名で構成する決算特別委員会が設置されました。

今次定例会において私が注目したのは、議員提案による県産木材の利用を促進するための条例が可決成立したことです。この条例に基づき、県産木材の利用促進に関する施策を総合的かつ計画的に推進することで、品質の高い製品を安定的に供給し、林業及び木材産業の振興による本県経済の活性化、循環型社会の形成、豊かな県民生活の実現を図ってまいります。

早いもので、私の議員としての任期も残すところ約半年となりましたが、県政の重要課題が着実に前進するよう、全力で取り組んでまいりますので、皆様の忌憚のないご意見・ご要望をお寄せいただきますとともに、引き続き、ご支援・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。